

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200828		
法人名	医療法人 和同会		
事業所名	グループホーム宇部		
所在地	宇部市大字西岐波229番地の3		
自己評価作成日	平成24年4月19日	評価結果市町受理日	平成24年11月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年5月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・自分で出来ることはして頂くように声掛けし、それが生活のリズムとなるよう支援している。 ・食堂などから桜や紅葉が楽しめたりくつろげる空間がありゆったりと過ごすことができる。 ・2名の常勤看護師を中心に健康管理を行なっている。また、病院が併設しており急変時の対応や日常の受診も連携できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を職員全員で共有し、利用者一人ひとりの思いに添ったケアの実践に努めておられます。昼食は事業所で作っておられ、利用者は盛り付け、配膳、下膳、台拭き、お盆拭き、食器洗い、食器拭きなど、一人ひとりができることを職員と一緒にされています。利用者と職員は同じ食卓を囲まれ、同じものを食べながら会話され、食事が楽しめるように支援しておられます。おやつ作りやらつきよう漬け、梅酒や梅ゼリーづくりなど、自分たちで作って食べることで張り合いや喜びにつながるようにも取り組まれています。利用者と一緒にラベンダーの花を育てて、花を摘み、乾燥させて匂袋をつくり、地域の文化祭で展示し、来場者に配布される他、野菜づくり、カーテン開け、モップがけ、ぬり絵、貼り絵、トランプ、書道、歌、テレビ視聴など、一人ひとりに合わせた楽しみごとや活躍できる場面をたくさん作っておられ、利用者が自分らしく暮らせるように支援しておられます。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしい安心のある快適な生活を提供する」「地域との交流を深める」の理念を共有し、利用者一人ひとりの思いに添った対応を行なっている。また、地域のボランティアの方によく入って頂いている。	地域未着型サービスの理念をつくり、掲示して共有し、実践につなげている。地域との交流を深めるために、地域のボランティアの受け入れを増やすなど、理念を具体的に活かす取り組みをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミ捨てに行く道中、挨拶をしている。また、通路を掃除したり草取りをして周りの環境を整備している。	地域の文化祭に利用者と職員とで作った作品を出品し、見学するなど参加している。地域と法人との共催で開催している夏祭りに利用者が参加し、地域の人と交流している。地域のボランティア(園芸、大正琴やサックスの演奏、習字、傾聴、フラダンスなど)の訪問を受け入れ、利用者と交流し楽しめるように支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談や問い合わせの連絡・訪問がある際に対応している程度。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	運営会議やケア会議で話し合い改善に取り組んでいる。	評価を実施する意義を説明したうえで、管理者と計画作成担当者として作成し、職員に配布して意見を記入してもらい、ケア会議で話し合っている。前回の評価結果については、できるところから取り組むように努めている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議で現状報告や課題を話し合いサービス向上に活かしている。	会議のテーマを決めて、2ヶ月に1回開催している。事業所の状況や活動報告をし、外部講師を招いたり、参加者が交代で講師となり、テーマに沿って話をし、意見交換をしている。出された意見で地域の文化祭への参加が決まるなど、意見をサービス向上に活かしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加及び届出等により、連携を図っている。	市担当課には出向いて、書類の提出や事業所のサービス提供状況を報告する他、電話で相談し助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は8:00～12:30、13:30～17:00の間開錠している。離苑の危険がある時のみ施錠する場合があることを入所時説明し理解を得ている。	身体拘束について理解した上で、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、気づいた時に管理者が注意している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待事例などが院内リスクマネージャーより提示ありが学習する機会を得ている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要のある場合、活用できるよう支援している。権利擁護はこれまで数人活用してきた。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解・納得を図っている。利用開始後の不安や疑問点は随時面会時などで対応している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約の際、受付体制などを説明している。また、玄関入り口にハガキを置いて自由に投稿できるようにしている。面会時には必ず情報交換をしている。	運営推進会議時や年1回の家族会の他、電話や面会時などで、家族からの意見や要望を聞いている。意見箱の設置やハガキの備え付けをし、意見を出しやすいように配慮している。苦情相談の窓口、担当者、外部機関を明示し、苦情処理の手続きを定め周知している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議や運営会議で話し合い、反映させている。	月1回の運営会議には法人の事務主任や看護師長が出席し、職員の意見や提案を直接聞く機会を設けている。事務主任や管理者は、日常的にコミュニケーションを図り意見を聞いており、職員の勤務体制、OA機器の更新等の提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与規程の見直し、各種研修会参加費の負担等行い、就業環境の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内院外研修を受ける機会を増やすよう目標にも掲げ努めている。	外部研修は情報を提供し、希望者や段階に応じて参加の機会を提供している。受講者は復命報告をし、資料を閲覧できるようにしている。内部研修はケア会議の中で数回実施している。	・法人内外の研修を受講する機会の確保
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を受ける機会を持てるように努力はしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフが情報を共有し、まずGHの生活に慣れて頂くよう対応している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室の掃除や料理など自分で出来ることはやって頂くよう声かけし、出来ないところを支援している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約の際、面会や外出についてお願いしている。面会は多く、必要時には状況報告し家族と一緒に対応している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人差はあるが定期的に面会に来られている。また、ユニット便りのコメント等で面会をお願いしている方もいる。	家族の協力を得て、馴染みの美容院の利用や墓参り、お盆や正月の外泊、葬儀や通夜への出席、温泉に行くなどの支援や、知人、親せき、近所の人々の来訪があるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に閉じこもらないように声かけし、気の合う人同士でくつろげる場所もある。また、利用者同士トラブルにならないよう配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為退去された方でも家族や本人の希望により、リハビリ後GHに戻って来る事がある。病院や施設のMSWとの連携を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を大切にしながら声かけや対応をしている。	入居時のアセスメントを活用したり、家族から聞き取るほか、入浴時や寄り添いの時間に利用者からゆっくりと話を聞いて、思いの把握に努めている。困難な場合には、家族からの情報や「生活記録」、「日常生活活動記録」を参考に、本人本位で検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約の際、情報収集している。また、入所後も家族や本人から随時情報を得ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜勤帯・日勤帯とも必要事項を表にしチェック・記録することで統一した対応を行なっている。記録を素に申し送りを行い現状の把握をしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所して1ヶ月後、初期カンファレンスを行なう。毎月評価し記録する。6ヶ月に1回カンファレンスを行いケアプランを立てる。(必要時には随時)	毎月のケア会議で利用者の担当職員を中心に利用者の状況について話し合っている。6か月毎にカンファレンスを行い、管理者、計画作成担当者、担当職員、看護師、参加可能な家族等で話し合い、介護計画を作成している。計画に沿って「日常生活活動記録」に記入し、1か月毎に評価をし、6か月毎に見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の業務日誌に記録するとともに特変あれば申し送り表にも記録し、職員間で共有している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対応して、その都度取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	主に校区のボランティアの方に入ってもらっている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院に職員が付き添い定期受診や体調不良時の受診を行っている。また、他院への受診も随時付き添って行っている。	利用者及び家族が納得した上で、協力医療機関をかかりつけ医としている。月1回の定期受診の支援や、緊急時や夜間の往診の対応、他科の受診は管理者や看護師が受診に同行するなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を中心に健康管理を行っており、異変があれば早期受診に繋げている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期へのあり方については、本人にとって一番安心できるあり方を家族・担当医・職員と共に話し合い方針を共有している。	指針があり、契約時に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から、かかりつけ医、家族、職員で話し合い、移設等も含めて方針を共有して支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。事故発生時の対応が共有できるよう努めている。	ヒヤリハット・事故報告書に記録し、t喜1回のケア会費で改善策を話し合い、介護計画に反映させて一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事業所でのノロウイルス発生事例を基にした感染症対応の訓練を実施している。全ての職員を対象とした応急手当や初期対応の訓練は実施していない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	病院全体での定期的な防火訓練に参加している。GH独自の避難訓練とマニュアルの確認を行事として取り組んでいく。	火災発生時マニュアルがあり、年に2回、法人全体での避難訓練や消火訓練、通報訓練を実施している。地域の協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり声かけの仕方が違うことを把握し、職員が同じ対応ができるよう心がけている。	ケア会議や申し送り時にトイレ誘導の声かけやなれなれしい言葉づかいなど、人格の尊重やプライバシーを確保することについて話し合っている。気になる言葉や態度があれば、職員同士や管理者が注意し、誇りやプライバシーを傷つけないよう気をつけている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように声かけし対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、それを大切にしながら対応している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	重ね着や裏返しに着ているなどチェックし、さりげなく対応している。施設に散發ボランティアに定期的に入って頂いているが、より充実した毛染めやカット希望のある方には移動美容室を利用してもらっている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に準備や片付け等行っている。職員と一緒に食事することで、楽しい雰囲気になっている。	昼食は事業所で調理し、朝夕の副菜は、法人の配食を利用している。利用者は、盛り付け、配膳、下膳、台拭き、お盆拭き、食器洗い、食器拭きなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じ食卓を囲み、同じものを食べながら会話し、食事を楽しんでいる。月に1回の「献立クラブ」で利用者の希望する食事を作ったり、おやつ(饅頭、ホットケーキ、)ジャム作り、らっきょう漬け、梅酒ゼリー作りなど、作る楽しみや食べることの楽しみが味わえるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立表を活用しバランスのとれた食事を提供している。食事・水分の摂取量を記録し健康管理を行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きセッティングを行い食後のケアを確認している。夜間は義歯を預かり管理している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要な方にはトイレ誘導している。状況に応じパットの種類を使い分けたり、布パンツと紙パンツの併用などその人に合った対応をしている。	日常生活活動記録を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師を中心に排便のコントロールを行っている。最終便の確認ができるようチェックしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週4回入浴を行っているが、楽しみにされている。	入浴は週4回、13時30分から15時過ぎまで可能で、一人ひとりゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。シャワー浴、清拭、足浴等の対応や、ゆず湯や入浴剤を使うなど入浴を楽しめるよう工夫している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの入床リズムを把握し支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理のファイルを活用し、服薬支援に努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ハーモニカや折り紙の得意な方が他利用者を巻き込んで楽しめるよう支援したり、園芸など持てる力を発揮できるよう支援している。	ラベンダーの花摘み、匂袋づくり、縫い物、ぬり絵、はり絵、折り紙、書道、週刊誌や新聞を読む、テレビ視聴、歌を歌う、トランプ、輪投げ、食事づくり、野菜づくり、草取り、水やり、季節の飾りづくり、らっきょ漬け、梅もぎ、梅酒作り、カーテン開け、モップかけ、洗濯物干し、洗濯物たたみなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が張り合いのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブなど機会あるごとに出かけている。また、天気の良い日は戸外に散歩に行っている。	毎日のごみ出しや中庭の散歩、季節ごとの花見(桜、ツツジ、菖蒲等)、ドライブ(常盤公園、市内の公園等)、年に1回の日帰り旅行など、戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により家族と相談し、お金を所持している方が数名いる。必要に応じ支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りの支援を必要に応じ行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花を生け、またベランダや中庭・入口に花を植えている。食堂からは桜や紅葉を楽しむことができる。壁面作りも皆で行い、季節感を取り入れている。	共用空間には、利用者と職員とで作った季節に合わせた作品が飾り、テーブルや椅子、ソファを配置し、季節の花が活けてある。キッチンからは、調理の音や匂いもしていて、生活感や季節感がある。テレビ室があり、本棚やソファを置いて利用者のくつろげる空間づくりをし、温度や湿度、換気、明るさに配慮して、居心地良く過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファやTV室等それぞれお気に入りの場所があり、思い思いに過ごせている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、お気に入りの物や使い慣れたものを持ってきて頂くよう伝えており、生活しやすいようにセッティングしている。	机、椅子、鏡台、衣装ケース、整理ダンス、籐椅子など、使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、季節の飾りやカレンダー、時計、家族の写真、自分の作品などを飾って、安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレが分かるよう工夫している。また、老人車や歩行器でも活用できるように配慮し、食堂のテーブルの配置も状況に応じ変えている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム宇部

作成日：平成 24年 11月 7日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	14	研修を受ける機会が少ない	法人内外の研修を受講する機会の確保	・法人が行っている研修に積極的に参加する。 計画的に数名を受講できるよう勤務表を作成する ・外部からの研修案内を掲示し参加を募る	4ヶ月
2	35	応急手当や初期対応の定期的な訓練が出来ていない	応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施	看護師をリーダーをとし年間の研修計画を立てて実施する	4ヶ月
3	36	法人全体での避難訓練や消防訓練等は実施しているが広い意味での地域の協力体制を築くまでには至っていない	地域との協力体制の構築	地域との連携に努める	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。